

# 広告

企画・制作／(株)宣通  
TEL. (052) 979-1602

## 健康講座 ドクター

# +

# Q&A

**Q** 60代男性です。同世代の友人が膀胱がんと診断されたらしく、不安です。どのような検査をすれば発見できるのでしょうか？

**A** 膀胱がんの多くは60〜70代で、血尿により病院を受診された方の約30%に見つかります。

検査は①尿検査で血尿を確認します。②超音波検査で膀胱内に隆起する腫瘍を発見します。5mm以下の小さな腫瘍や平坦型のがんの診断は困難です。③尿中細胞診。尿に流れてくる悪性細胞を顕微鏡で見つけます。悪性度が低いがんでは検出率が低いことが欠点です。④膀胱鏡検査。膀胱内にカメラを挿入してがんを発見します。以前は金属製の硬性鏡が使用さ

れておりましたが、最近では胃カメラのような細い軟性鏡を使用し、尿道を通して膀胱内を観察します。⑤CTやMRI検査で膀胱外への広がりや転移の有無を検査します。

膀胱がんの最大の原因は喫煙で、タバコを吸わない人の2〜3倍程度がんになりやすいといわれています。早期がんであれば内視鏡的に膀胱内の腫瘍を切除することができ、切除したものを顕微鏡検査により悪性度や膀胱内の深達度を検査します。膀胱がんは再発が多く、2年以内に半数以上に再発が起きます。手術後も定期的に膀胱鏡検査などで検査することが重要です。



院長 折笠 一彦  
(仙台腎泌尿器科)

1994年福島県立医科大学卒業。  
1998年東北大学大学院泌尿器科学専攻卒業。  
八戸市立市民病院、東北労災病院、白河厚生総合病院、東北大学病院、気仙沼市立病院勤務。  
2022年4月より仙台腎泌尿器科。